

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500131		
法人名	エポックワン株式会社		
事業所名	グループホームこもれば城ヶ丘		
所在地	山口県周南市城ヶ丘4丁目3536-1		
自己評価作成日	平成27年10月5日	評価結果市町受理日	平成28年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>室内に閉じこもらないように、屋外で過ごせる環境を整えている。 自治会に加入し、地域の行事にも積極的に参加している。 看護師2名を配置し、健康管理、医療機関との連携に力を入れている。 季節や本人の嗜好に合わせた活動を様々に提案し、刺激のある毎日が送れるように支援している。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年10月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は小学生の登校時の立哨や、地域の清掃作業に利用者と一緒に参加しておられます。地域の文化祭や夏祭りには準備から後始末まで協力しておられ、出店をされるなど、地域の一員として必要とされる活動や役割を担っておられます。利用者は文化祭や夏祭りに参加されるだけでなく、出店して販売されるなど、地域の人と身近に交流できるように工夫され、利用者が地域とつながりながら暮らしていけるように支援しておられます。災害時には地域の避難場所として事業所が協力しておられ、地域の防災訓練へは職員が参加されて、炊き出し訓練を実施され地域との協体制を築いておられます。事業所は2名の看護師を確保されて、利用者の健康管理や夜間や緊急時の医療機関との連携を図っておられる他、利用者個々の状態に合わせての受診や歯科、皮膚科の往診が行われるなど、利用者が適切な医療が受けられるように支援をしておられます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ実践に繋げている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示して意識づけ、共有している。ケアカンファレンス時や日々のケア場面において話し合い、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、清掃活動があるときは参加。地域の文化祭や祭りがあるときには、城ヶ丘施設として店を出している。その際、祭に来た地域の人と交流。登校時には、月1回程度立哨に参加している。	自治会に加入し、総会の中で事業所の紹介をして理解を深めている。職員は月1回、小学生の登校時に立哨し、清掃作業には利用者も参加している。地域の文化祭に出店して利用者が販売し、夏祭りでは職員が準備から後始末まで協力し、利用者も参加して地域の多くの人と交流している。ボランティア(傾聴、徳山高専学生の楽器演奏、踊り、歌)で来訪している人や散歩時には近所の人と挨拶を交わすなど日常的に交流している。事業所を災害時の避難場所として提供し訓練時には炊き出しを行い、地域の避難場所として貢献できるように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生の実習の場として提供し、貢献できる施設を目指している		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の項目を実践することにより、より良いサービスができると考え実践できるようにしている。	管理者は評価の意義を説明し、ガイド集や前回の外部評価結果を参考にして、各ユニット毎で話し合った後にまとめている。評価項目はサービスを提供する上で重要な内容であると捉え、研修を通して深めることとしている。前回の外部評価結果を受けて研修の充実や事故防止に向けて研修に取り組むなど、具体的な改善に取り組んでいる。	・評価項目の理解

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状、施設の現状などを運営推進会議で伝え、率直な意見や情報を頂いている	会議を2か月に1回、定期的開催している。利用者の状況や活動状況、職員の異動、外部評価等の報告の後、話し合いや事業所内見学、利用者との交流をしている。他の事業所の状況や外出場所の紹介、行政施策の状況などの情報をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、毎回出席していただき、事業所の実状を報告している。	市の担当者とは、運営推進会議時や電話で情報交換や介護保険等の不明点を相談し、助言を得るなど協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話で事例についての相談を行うなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、自由に行動していただき、それに寄り添うようにしている。臥床時の柵についても検討し、拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回あるミーティングの中で、事故防止委員会による指導によって学び、職員は身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者とは一緒に出かけるなどの工夫をして身体拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、職員同士が注意しあっている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介助等に出来たであろう小さな圧迫痕も見逃さず、対策をたてている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会を設けたこともあるが、理解するには至っていない		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には十分に説明を行い、納得していただけるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情の受付体制について説明し、ここで生活するにあたっての要望を聞き、ケアに生かせるようにしている。	苦情、相談の窓口や受付担当者、外部機関を明示し、苦情処理手続きを定めて契約時に家族に説明している。運営推進会議時や面会時、行事参加時、草取り来訪時に直接家族から聞いている他、電話やメールでも聞いている。2か月に1回、介護相談員が来報して利用者の話を聞いている。苦情や相談内容は「苦情対応綴」に記録して職員間で共有している。食事に関する意見(献立、形態)があり、法人の厨房に連絡して反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の課題については、ユニットリーダーを設け、検討。リーダー会議、ミーティングの時に職員の意見を聞き、反映するようにしている。	日々の申し送り時やミーティング、リーダー会議、カンファレンス時に職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で管理者が個別に話を聞いているなど、意見が言いやすいような環境づくりに努めている。職員の意見から、事故防止委員会を設けて、事故防止や利用者の安全な環境づくりに取り組んでいる。ミーティング時に人間関係についてやメンテナンス、福祉用具の活用などの意見があり、反映させるように努めている。新人職員には年2回、個人面接をして聞いている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や外部研修について費用援助や勤務調整を行い支援している。評価表を用い各個人の努力、実績に応じて給与に反映している		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験者の場合、初任者研修を働きながら学ぶことができるような仕組みを会社が設けている。法人外での研修を受ける機会を設け、それを報告する形で研修を受けなかった職員も内容を共有するようにしている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は研修報告書を提出し内部研修で伝達して職員全員で共有している。内部研修は毎月1回、ミーティング時に外部講師や管理者、看護師が講師となって心肺蘇生法や口腔ケア、排泄ケア等について実施している。新人職員は外部研修を受講の後、日々の業務の中で、専任の指導者によって介護の知識や技術を学ぶように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外の研修で他事業所の職員と交流、情報交換を行い、法人内では、行事や地域の祭り等を通して交流をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に居宅のケアマネやサービス事業所から情報もらい本人を把握するようにしている。本人や家族からもコミュニケーションを取りながら要望を聞き、なじみの関係が築けるようにしている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族から要望を聞くようにしている。家族と施設が互いに利用者を支えることができるような関係づくりをしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設の見学や申込時に求めているサービスが他事業者の方が可能な場合、他のサービスの説明や簡単な紹介もしている。家族の対応が困難であると考えられる事については施設が代わって行ったり、他業者を導入したりしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	有する力が維持できるよう役割を意識し、利用者と協力して生活ができるよう心掛けている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年4回こもれび通信を送り、担当職員がご本人の現状を書面にてお伝えしている。面会時には率直な意見を伺い、協力も頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親せきの他に近所の人や友人の面会もある。家族が本人と共に通院、外出をすることもある。家族参加型のイベントも開催し、積極的に関わって頂けるようにしている	家族や親戚の人、近所の人、友人の来訪がある他、自宅付近のドライブや趣味講座に出かける支援をしている。年4回、家族に利用者の状況を記録した事業所便りを送付している他、携帯電話の取次ぎの支援をしている。家族の協力を得て行きつけの美容院の利用や馴染みの商店での買い物、寺参り、結婚式への出席、外出など馴染みの場所や人との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が関われるよう席の配置に配慮している。くつろぎコーナーにはソファを設け、相性の良いもの同士が隣同士で座りながら、くつろげるようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後もフォローに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が可能な方は、日常生活の会話の中で意向や希望を聞いている。それをもとに買い物やレクリエーションに反映している。困難な利用者には、日々の生活の中で思いをくみ取るようにしている。	入居時に把握したセンター方式のシート(基本情報や暮らしの情報、本人や家族の暮らし方の希望、思い)を活用している他、日々のケアの中での利用者の言動や表情などを介護記録に記録して、思いの把握に努めている。困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	・記録の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主に入居時に家族より生活歴を聞き、入居後からも本人とのコミュニケーションの中で又は面会に来られた親せき、友人から情報を得るなど今までの暮らし方を把握するようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	なるべく自由に過ごして頂いている。健康状態は毎日のバイタルチェックやコミュニケーション等で把握するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者の担当を決め、モニタリングを進めている。日々の課題は、カンファレンスで話し合い、ケアに生かしている。	計画作成担当者と利用者を担当する職員が中心となって、月1回、カンファレンスを開催し、利用者や家族の思いや意向、主治医、看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている他、利用者の状態や状況に変化があればその都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録する他にバイタル、排泄、食事量、大まかな水分量などを記録し、状態を把握するように努めている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族で出来ないことは、変わって施設が対応し、ご本人の希望により、それが家族で対応可能であれば協力をお願いしている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、地域の方の出席が毎回あり、災害時にも自治会長に通報がいくようになってきている。他施設での趣味活動にも参加している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関もあるが、緊急時の対応も含め、ご本人やご家族の希望、話し合いにより、かかりつけ医を決めている。	本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。定期受診や他科受診は家族の協力を得て受診支援をしている。協力医療機関は月1回の定期受診や夜間、緊急時の指示を受けている。歯科と皮膚科は必要に応じて往診がある。受診結果は電話で家族に報告して、共有している。2名の看護師を確保しており、看護師は健康管理や得られた情報をかかりつけ医に報告して対応するなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤、非常勤と2名の看護師を配置し、気づきがあれば伝え、受診に繋げている。夜間も報告、指示が受けられるような体制をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供し、退院時には病院から情報をもらっている。退院前には施設で介護するにあたり家族、病院と話し合いをしている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針があり、契約時に説明をしている。実際に重度化した場合はホームで出来ることを伝え、家族と話し合いをしている。	「重度化した場合の指針」があり、契約時に事業所のできる対応について家族に説明をしている。実際に重度化した場合は、早い段階から家族やかかりつけ医、看護師等と話し合い、方針を決めて共有し、医療機関や他施設への移設も含めて支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止委員を設け、対策をたてて事故防止に取り組んでいる。同敷地内にある事業所にAEDを設置し、使用方法も学んでいる。	ヒヤリや事故が発生した場合は、「ヒヤリハット、事故報告書」に状況や対応を記録し、事故防止委員会への報告を行い、事故防止策を記録した後に回覧して共有している。月に1度あるミーティングの中で再度話し合い、「事故防止のための決意表明」を事業所内に掲示して、一人ひとりの事故防止に努めている。救急救命法とAEDの取り扱い方の研修を職員全員が受講し、骨折やのどのつまり等の研修を実施しているが全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回同敷地内の施設と合同で避難訓練を実施。地域の防災訓練や炊き出し訓練に参加している。	消防署の協力を得て年2回、同一敷地内の法人施設と合同で、昼夜の火災を想定した避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方、通報訓練を実施している。利用者や地域住民、運営推進会議メンバーが参加している。事業所の連絡網に自治会長が入り、災害時の地域の避難場所として事業所を提供し、地域の年1回ある防災訓練や炊き出し訓練に参加しているなど、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、対応するようにしている。プライバシーの確保については改善すべき点がある。	管理者は、職員に自分がされて嫌だと思うようなことはしないように指導している。人格を尊重し、誇りやプライバシーを傷つけない言葉かけや対応をしている。不適切な対応に気づいた時には管理者が注意している。個人情報には取り扱いに注意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをする中でさりげなく、思いを聞くようにしている。思いを表出するのが難しい利用者に対しては、思いをくみ取り対応している		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせ、何事も強制しないよう対応している		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を取り入れ、散髪だけでなく人によっては、毛染めも行っている。季節にあった衣服を着ていただくよう、利用者によっては職員が選んでいる		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなどは段々と難しくなっているが、時々おやつ作りに参加して頂いている。ホーム内だけでなく時には外食もしている。本人の状態に合わせて食事形態を工夫している。	三食とも同一敷地内の法人厨房からの配食を利用している。家族から差し入れの野菜や果物などでおやつや一品料理をつくっている。食事の摂取状況を見ながら、利用者の好みや状態に合わせて食品や形態の工夫をしている。利用者はテーブルやお盆を拭き、野菜の下ごしらえや野菜を切る、お茶を汲む、下膳、食器を洗うなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は一緒にのテーブルについて話を弾ませながら食事をしている。おやつづくり(ホットケーキ、白玉団子、ぜんざい、焼きそば)や前庭での戸外食、誕生日のケーキづくり、季節行事食(桜餅、ソーメン流し、餅つき)、家族と一緒にのバーベキュー、月1回の外食など食事を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がたてた献立を提供している。食事量、水分量などを記録し、一人一人の状態を把握するようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自力、または介助により口腔ケアを実施している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を心掛け、実施している。排泄チェック表にて一人ひとりの排泄パターンを把握し、サインも見逃さないようにしている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、利用者に向けた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	気候のよい日に屋外での散歩を行うなど腸の動きを促進させるよう努めていると共に水分補給や乳製品、オリゴ糖使用など考えられるものは工夫している		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	時間はある程度決めてはいるが、入浴拒否、入浴希望などには柔軟に対応している。入浴が楽しめるよう入浴剤も使用している。	入浴は、毎日13時30分から17時まで可能で、順番や入浴時間、湯加減、入浴剤の利用など利用者の希望に合わせて、ゆったりと入浴できるように支援している。柚子湯や菖蒲湯にして、季節の工夫をしている。入浴したくない人には無理強いしないで、言葉かけの工夫や時間を変えたり、職員を交代するなどの工夫をしている。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、シャワー浴、機械浴など、個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう日中屋外で過ごし、散歩を取り入れたりしている。拒否等がない限り夜はパジャマを着て就寝をうながしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースファイルに薬の情報を入れ、いつでも見られるようにしている。新しく薬が追加されたときは、副作用も併せて伝えており、症状の変化の確認に努めている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人にあつた役割を考え提供している。ホーム内での行事、同敷地内合同の催し、時には外出など気分転換になるものも取り入れている	洗濯物たたみや花を生ける、新聞紙でゴミ箱づくり、プランターで野菜づくり、野菜の水やり、野菜の下ごしらえ、お茶汲み、テーブル拭き、お盆拭き、下膳、食器洗い、テレビやDVD(歌、お笑い)の視聴、新聞や雑誌、本を読む、ぬり絵、編物、ラジオ体操、脳トレ(計算、漢字)、貼り絵で壁面飾りを作る、ボランティアとの交流、季節行事(クリスマス、バーベキュー、餅つき)、外食、外出など、楽しみ事や活躍できる場面を多くつくり支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂くような外出や個別の買い物、ドライブなど外に出られる機会を設けている	事業所周辺の散歩や前庭での体操、日向ぼっこ、季節の花見(桜、つつじ、バラ、紅葉)、ドライブ(自宅周辺)、初詣の他、家族の協力を得て、美容院や買物、外食、結婚式に出かけるなど、利用者の希望や状態に合わせて戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームでの管理はしていないが、持ちたい人は財布を所持して頂いている。本人が全額所持するのに不安が残る場合は、家族との話し合いにより預かり、必要な時に渡している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご家族了承のもと電話をして頂いている。携帯電話を所持している利用者については操作方法がわからなくなってしまうため、その都度支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に咲いている花を利用者自身に摘んでいただき、所々に飾っている。食事用のテーブルの他にくつろぎコーナーを設け、ソファでくつろげるようにしている。壁には季節が感じられる利用者と一緒に作った作品などを飾っている。	共用空間は天井が高く、大きな窓から入る自然光で明るい。リビングは広く、テーブルや椅子、テレビやソファを配置している。外庭に続く日当たりのよいベランダには TENT を張り、テーブルや椅子を置いて食事やお茶を楽しみ、日光浴をするなど、季節を感じて楽しむことができるように工夫している。室内の壁面には活動の写真や手づくりカレンダーを飾り、温度や湿度、換気に配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事用テーブル以外にも、くつろぎコーナー、テレビ前ソファなどその時の気分に合わせて移動して頂けるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは自由にし、なるべく本人の馴染みのある物を持ってきて頂けるようお願いしている。ご本人が作成した物も掲示物も飾っている。	箆笥、大型収納棚、時計、クッション、ぬいぐるみ、小箱など使い慣れた物や好みの物を持ち込み、写真(家族や本人)や祝いの色紙、市からの米寿の祝い状、カレンダー、ドライフラワーなどを飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内に手すりを設け、移動箇所には障害物を置かないようにしている。ベットには介助バー、浴室にはグリップやすべり止めなどを使用。自立支援や事故防止に取り組んでいる。居室には名前を記し、トイレなどの場所も表示している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームこもれび城ヶ丘

作成日: 平成 28 年 5 月 31 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33 (15)	事故発生時のルール作りが十分でなく、応急手当や初期対応が身についていない	事故発生時の初期対応を身につける	事故防止委員会にて未然に防ぐ研修を行うとともに、ルール作りも行う。 全員がAEDの使用方法を知り、救急救命法を学ぶ	1年
2	24 (11)	一人ひとりの思いがわかる記録になっていない	利用者の発言や思いがわかるようにする	本人の思いには、記録にアンダーラインを引き、すぐにわかるようにする	1年
3	4 (3)	評価項目があっても理解されておらず、活かされていない	評価項目にそって現在の対応を振り返り、改善していく	各ユニットごとに評価項目の内容を検討。現場での対応に生かしていく	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。